

腹部 Stoma に対する Varicare® System 2 Urostomy の使用経験

神戸大学医学部泌尿器科学教室（主任：石神襄次教授）

守 殿 貞 夫 ・ 北 野 喜 彦

岡 田 泰 長 ・ 浜 見 学

梅 津 敬 一 ・ 藤 井 昭 男

石 神 襄 次

原泌尿器科病院

大 前 博 志 ・ 原 信 二

THE USE OF VARICARE® SYSTEM 2 UROSTOMY IN THE SKIN CARE OF ABDOMINAL WALL STOMA

Sadao KAMIDONO, Yoshihiko KITANO, Yasunaga OKADA,

Gaku HAMAMI, Keiichi UMEZU, Akio FUJII

and Jyoji ISHIGAMI

From the Department of Urology, Kobe University School of Medicine

(Director: Prof. J. Ishigami)

Hiroshi OOMAE and Shinji HARA

From Hara Genito-Urinary Hospital

Varicare® System 2 Urostomy is consisted of the dermal protective stomahesive flange, urostomy bag and a belt. This System 2 urostomy was used as skin barrier to 20 ostomists suffering from urine leakage and/or skin irritation around abdominal stoma under ileal or ileocecal conduit. The following results were obtained from this study:

1. Stomahesive (Varicare®) has proved effective in the prevention of skin excoriations around an abdominal stoma.
2. The wearing time of this System 2 varied between 4 and 11 days with a mean value of 6.1 days from all patients.
3. 95% of all patients estimated to continue using this System 2.
4. No side effects necessitating stop of the use was observed.

Accordingly, it is expected that Varicare® System 2 Urostomy may be useful in managing the abdominal stoma as the potent skin barrier.

は じ め に

Ostomate にとって 腹部 stoma の管理は重大関心事であり、尿漏に関係する装具と皮膚との接着性や stoma 周辺の皮膚障害が特に問題としてあげられる。著者はこれらの対策として、皮膚保護作用や接着性に

すぐれている stomahesive (Varicare®) が有用であることをすでに報告した。しかしこの stomahesive は skin barrier として face plate と腹部 stoma との間に単に介在させ使用するもので、face plate や urostomy bag と一体化された製品でなくその装着操作が多少煩雑であった。今回 SQUIBB 社により開発

された Varicare® System 2 Urostomy (VC-2 と略する) は stomahesive と urostomy bag が flange により簡単に接続できることから、その有用性が一段と増強されたので報告する。

対象および方法

対象は神戸大学医学部附属病院およびその協力機関

における回腸導管あるいは回結腸導管造設後の患者 20名である。彼らはいずれも装具着用期間が短く、stoma の管理などに問題のある症例で、そのうち stoma 部周辺皮膚に刺激症状などを認めない例を Group 1, 障害を認めるものを Group 2 とした。

VC-2 は stomahesive flange (Varicare® flange; サイズ 38 mm, 45 mm), urostomy bag (Varicare®

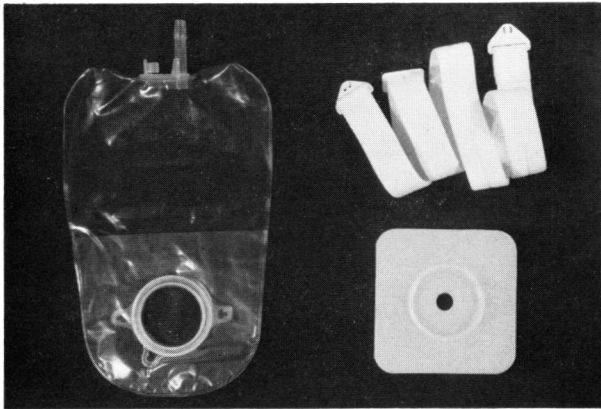
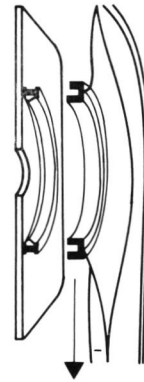


Fig. 1. Varicare System 2 Urostomy is consisted of the Varicare flange, Urostomy bag and a belt.



11.8 kg

Fig. 2. The bag and the Varicare® flange.

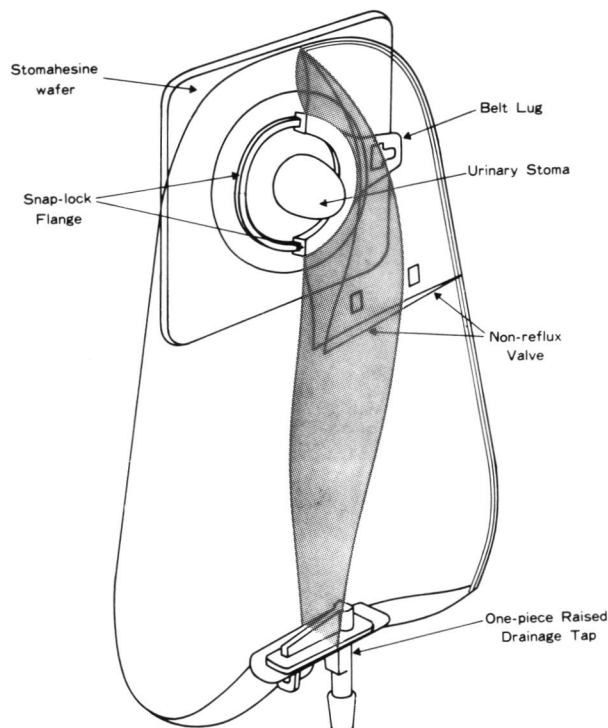


Fig. 3. The Varicare® Flange and Urostomy bag.

Urina Bag: 容量 500 ml) およびベルトの3点からなる新しい装具である (Fig. 1). stomahesive の成分およびその特徴はすでに報告したので省略するが、これに flange を組みこんだものが stomahesive flange (Varicare® flange) で, urostomy bag と完全にスナップロックされ, その強さは Fig. 2 のごとく 11.8 kg の重さに耐えられる. また urostomy bag の交換は容易で, バッグの方向は自由に簡単に変えることができる. urostomy bag は安全な二重バッグ構造で, バッグ内に non-reflux valve (Fig. 3) があるため流出尿が導管内へ逆流することがないとされている. またバッグは重層プラスチック製のため防臭効果が高い. バッグ底部にある drainage tap (Fig. 3) は容易に確実に密封することができ, 臥床時には簡単に drainage bag へ接続可能である.

使用 方 法

stomahesive flange を使用する前に, まず皮膚を清潔にし油分を取り除くなどの通常の手順が行なわれる方が望ましい. まず, 添付されている cutting guide に stoma の大きさと同じ穴をあけ, それをもとに Vagicare flange に穴をあけ, 白い裏紙を剥がし stoma の位置に軽くおき, stoma と Varicare flange の間を密着させ皮膚に Varicare flange がなじむように約30秒間おしつける. Varicare flange の周辺を皮膚保護作用のある絆創膏で Fig. 4 のごとく強化すればその装着はさらに強固なものとなる.

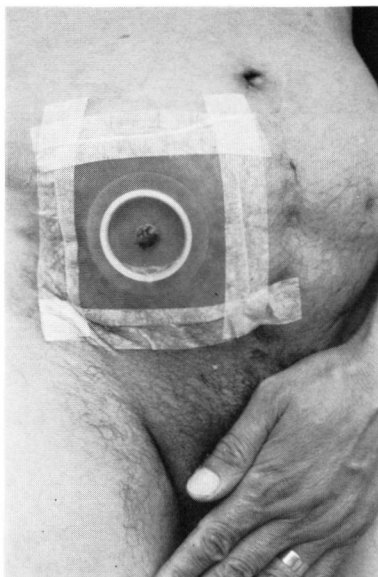


Fig. 4. Applying the Varicare Flange.

つぎに urostomy bag を Varicare flange にスナップロックする (Fig. 5). バリケータベルトは必要に応じて使用する.



Fig. 5. Attaching the Varicare Urina Bag and fitting a belt if required.

検討項目は VC-2 の皮膚刺激作用および創傷治療効果, 尿漏出と関連する装具着用期間, 日常活動における取り扱いが従来の装具 (Lapides あるいは ACMI 社製) に比し秀れているかなどである.

成 績

1. 皮膚刺激作用 (Table 1)

Table 1 に示すように皮膚刺激をみとめた症例は1例もなく10例中全例で皮膚の状態は正常で使用前と変わりなかった.

Table 1. Skin irritation (Group 1, n=10).

pre-use	post-use	No. of cases
N	N	10
N	SI or I	0

N : normal, SI : slight irritation I : irritation

2. 創傷治療効果 (Table 2)

stomahesive により Group 2 の10例中8例で皮膚炎等の障害は治癒し著効と判定され, 残りの2例については1例が改善, 他の1例は no change であった.

Table 2. Wound healing (Group 2, n=10).

pre-use	post-use	No. of cases
SI	SI	1
SI	N	3
I	I	0
I	SI	1
I	N	5

N : normal, SI : slight irritation, I : irritation

3. 装具着用期間 (Table 3)

装具着用期間は Group 1 および 2 を一括して検討した成績で、対象 20 例の VC-2 使用前の平均装具着用期間が 3.4 日であったものが、VC-2 使用中は平均 6.1 日と有意に延長し、最長着用期間は 11 日であった。

Table 3. Wearing time (days).

No. of cases	pre-use (mean)	during use (mean)
20	1 - 4 (3.4)	4 ~ 11 (6.1)

4. その他

VC-2 の urostomy bag (容量 500 ml) の形および大きさをほとんどの患者は適当と評価し、bag の drainable tap の操作も簡単であるとしている。VC-2 を装着して入浴した際の尿漏れについては、全例で洩れを生じることなく良好な成績であった。また、著者の施設で使用している従来の ACMI や Lapides の装具にくらべて VC-2 は装着や取りはずしが容易で、活動性にも富んでいることが分った。

以上の点を含め、VC-2 に対する患者の総合的な評価 (Table 4) は good 17 例, fair 2 例と、95% の患者が有用とし今後も VC-2 を使用したいと述べている。不変と評価したものは 1 例のみであった。なお VC-2 の使用を中止するような副作用は 1 例もなかった。

Table 4. Patients appreciation.

	no. of cases
good	17
fair	2
stationary	1
poor	0

考 察

skin barrier としての stomahesive の特徴や構成成分についての詳細はすでに報告されている¹⁻³⁾ のでここでは省略するが、つぎの 2 点が本剤の有用性としてあげられる。本剤には 1 つは皮膚刺激作用がほとんどなく創傷治療効果があること、および尿漏出防止効果により装具の着用期間が延長することである。この stomahesive と urostomy bag にそれぞれ flange が組み込まれ、簡単にスナップロックされる機構をもった VC-2 の有用性は充分予想されるところで Breckman⁴⁾ もこの System 2 の有用性を示唆しており、今回の成績もこれを裏付けている。かつ urostomy bag には non-reflux valve があり、bag 内へ一度流入した尿が導管内へ逆流しないよう工夫されている。この valve の逆流防止効果はほぼ満足しうるもので、Varicare® flange を長持ちさせかつ尿による感染予防に有利であろうことが推測される。

Fig. 6 は 11 日間使用した後の Varicare® flange で flange 内の基剤は消失し polyethylene film のみが残存している。この基剤は尿や腸管分泌物中の酵素などにより変性あるいは消化されないとされていることからおそらく尿により洗い流されたものと考えられるが、この基剤流失の範囲はいずれの症例においても flange 内に限られており、尿漏出程度に影響していなかった。また VC-2 を装着したまま入浴やシャワーを浴びても Varicare® flange は剥がれることなく、ひき続き使用可能であった。しかし、前述のごとく



Fig. 6. Varicare flange after the use.

flange 内の基剤が尿により流失することから長時間にわたる入浴は避けた方が好ましいと考えられる。

今回の VC-2 の平均着用日数は6.1日で stomahesive (Varicare®) を単に skin barrier として用いた前回のそれも5.8日と良好な成績であったことから stomahesive は皮膚刺激作用もなく尿漏出防止に効果ありと一般的に評価されるものと考えられる。

VC-2 は以上述べたように腹部ストマの管理に有用であるが1つの難点は高価なことである。

結 語

回腸あるいは回結腸導管症例の urostomy care に皮膚保護作用のある stomahesive (Varicare®) と urostomy bag を組み合わせた Varicare® System 2 urostomy を用い、以下に述べる成績を得た。

1. Varicare® flange には皮膚刺激作用等の副作用はなく、創傷治療効果があった。

2. Varicare® System 2 urostomy の平均着用期

間は6.1日と使用前のそれに比し明らかに延長した。

3. Varicare® System 2 urostomy に対する患者サイドの評価は高く、95%のものが今後も使用したいと述べている。

以上、腹部 stoma の管理に Varicare® System 2 urostomy が有用であることを報告した。

文 献

- 1) 守殿貞夫・ほか：泌尿紀要, 25: 1199～1203, 1979.
- 2) Kyte, E.M. et al.: Med. J. Aust., 2: 186～187, 1970.
- 3) Beernaerts, A. et al.: Acta Chirurgica Belgica, 6: 533～537, 1977.
- 4) Breckman, B.: J. Community Nursing, 3: 4～6, 1979.

(1981年1月21日迅速掲載受付)